



小樽ロータリー

クラブ会報

18 No.3893
創立1933.12.12

2013～2014年度 RI会長 ロン D.バートン(Ron D. Burton)

例会場：グランドパーク小樽
例会日：毎週火曜日12時30分
事務所：小樽市築港11番3号
http://www.otaru-rotary.net/
発行日：2013年11月19日



2013-14年度
国際ロータリーテーマ

今日のプログラム

「実は難しくない？財団について」

国際ロータリー第2510地区財団委員会委員および未来の夢計画推進委員会委員 出村知佳子 様

第17例会記録 2013年11月12日

- ロータリーソング 「それでこそロータリー」
- ゲストスピーカー
小樽ジャンプ少年団 コーチ 川崎 清司 様
- メーキャップ受付
福島 正紘 様・板垣 明 様 (小樽南RC)

■会長報告 (杉江会長)

1. 11月はロータリー財団月間です。ご協力をお願いします。
2. 11月5日(火)に夫人親睦会が銀鱗荘で開催されました。80周年と言う事もあり奥様方だけで実施しようと言う事でチャレンジしました。佐藤委員長の努力のおかげで結果19名参加して頂きました。参加された奥様によりしくお伝えください。
3. 11月9日に第2回第6グループ会長・幹事会が開催されました。
私は、出張中の為、参加できませんでしたので坂田次期会長に参加して頂きました。
小樽クラブとしては、80周年参加に対するお礼を申し上げたところ、全クラブから非常に素晴らしい80周年でしたと言うお言葉を頂きました。
4. 10月29日に行われたガバナー公式訪問について安孫子ガバナーからお礼状が届いております。
5. ガバナー月信の11月号に陸前高田の震災支援の内容が取り上げられました。
6. 9月の出席率ですが、85.0%でございました。
地区平均が84.32%ですので、平均くらいかなと思います。
参考までに、札幌RCは98%、小樽南RCは91.6%でした。
皆様のご協力よろしくお願い申し上げます

■幹事報告 (稲垣幹事)

1. 先週の理事会にて「クラブ細則第1条第1節に基き次年度理事及び役員を指名する指名委員会を設置し、指名委員会は当理事会をもって指名委員会とする。」ことを、承認されましたのでご報告させていただきます。
2. 土屋大乘会員は、会員親睦委員会へ配属となりました。
3. 余市RCより前期のインターシティミーティングの記録誌が届いております。
4. 小樽南RC、11月29日(金)移動例会です。会場は小樽学校給食センターになります。12月13日(金)家族忘年会18時からになります。
12月27日(金)休会。平成26年1月3日(金)休会。

5. 岩内RC、11月14日(木)18時30分～会場は福島に変更の連絡が来ています。

■委員会報告

●例会運営委員会 (橋本会員)

入口のボードに現時点の出席率を張り出しています。各自ご確認ください。

■その他報告

●上浦会員

講演会の案内です。11月17日(日)9時30分から朝里クラッセホテルで拓殖大学教授の講演会が開かれます。先着10名に限り無料チケットがあります。

●田中会員

歴代幹事の会のかなめ会を、11月19日(火)18時30分から宏楽園で開催します。

■真心箱報告 (荒木会員)

- ・ 飴谷 会員…ガバナーより永年100%表彰されて
- ・ 坂田 会員…会長代理で第6グループ会長幹事会に出席してきました。
- ・ 佐藤(慶)会員…第1回夫人親睦会を終えて。第2回目もよろしくお願いします。
- ・ 金久保会員…市民会議の小樽カレンダーの表紙が今年も私の絵になりました。
サホロリゾートのフェイスブックに「芸術の秋、最終日の朝」として載りました。
- ・ 島口 会員…誕生日祝。
- ・ 杉江 会長…誕生日祝。
- ・ 高橋 会員…72歳になりました。11月13日です。
- ・ 遠藤 会員…誕生日祝として。
- ・ 荒木 会員…昨日、誕生日を無事に迎えることが出来て。

出欠調べ

(11月12日分)

1. 本日の欠席者 (14名)
泉 侑、伊藤 保夫、井上 晃、加地 幸宏、
小松田哲弘、西條 文雪、武井 豊、長谷川 寛、
堀岡 秀之、榎谷 孝、村住 俊幸、米山 幸宏、
渡邊 康宏
2. 本日の出席者 (会員73名中57名)
(出席規定除外者9名中6名出席)
3. 前々回 (10月29日) の確定出席率 (会員数74人)
(義務出席会員73名 出席66名 90.00%)
4. 前々回のメーキャップ
堀岡 秀之 (地区大会)

前回のプログラム

「小樽ジャンプ少年団の活動について」

小樽ジャンプ少年団 コーチ 川崎 清司 様

小樽ジャンプ少年団のコーチをしております川崎清司です。

最初に、スキージャンプに関わって活動していた18年間の競技生活の話をさせて頂いて、その後にジャンプ少年団の話をさせて頂きます。

私は47歳になりまして、小学校4年生の時に潮見台シャンツェでジャンプを始めさせて頂きました。住んでいたところは奥沢1丁目ですので窓を開けると潮見台シャンツェが見えて、兄が1年間だけですが、少年団に入団したのがきっかけで入団しました。

高校は、小樽北照高校に進学しインターハイで団体の全国優勝した時のメンバーでした。

個人的には成績は良くなかったのですが、他のメンバーやクロスカントリーのメンバーが頑張ってくれたお蔭で総合優勝することが出来ました。

卒業してからも、まだ飛びたいと言う事で親に頭を下げて大阪の近畿大学へ進学し、ジャンプを4年間頑張る筈だったんですけども、道頓堀が私を呼んで中々ジャンプに打ち込めませんでした。

その後、実業団で獲ってくれるところを探し、札幌の東洋実業と言うビルメンテナンスの会社からお声をかけて頂き、会社に所属して5年間ジャンプを飛ばさせて頂きました。

社会人1年目、順位が低迷し、社長に呼ばれ「お前は、もう飛ばなくていい。会社の恥だ。」と言われ札幌東区のスキー部の寮を出されまして小樽に戻ってまいりました。1人、潮見台シャンツェで整備をしながら練習をしていました。

2年目の春、社長に呼ばれ「今シーズン成績が出なければ辞めてもらうよ」と言われ厳しい世界だなと思いましたけれど、頑張りたいと思い、監督コーチと相談のもと当時海外で3人くらいしか飛んでる選手がいないV字ジャンプに日本人で初めて挑戦しました。

当時、周りから「無理。無理。」と言われましたが、言いたい人には言わせておけと練習に打ち込みました。

V字にして初めて試合に臨んだとき、70mか80mくらいの選手だったのですが、K点を越えるようになりました。

2月の秋田県で行われた全日本選手権で見事に優勝することが出来まして、それから周りの皆がV字ジャンプをするようになりました。

小樽ジャンプ少年団は、昭和46年（札幌オリンピックの前年）の設立で初年度の団員数が120名、オリンピックに出場した団員生は、八木弘一、須田健二、宮平秀治、吉岡和也になります。

現在は9名になります。平成18年には、団員数1名になりました。私が入団していた当時、60名おりました。

平成18年に、石川君から電話をもらい「このままだったら少年団0人になってしまうので、何とかOBで立ち上げませんか？」と言われ、小樽で10名集まりボランティア

アでなんとか少年団を復活させようと活動を始めました。

多い時は、13名所属していましたが、現在は9名で活動しています。

参考までに札幌が27名、余市が10名、下川町が13名、岩見沢3名、手稲5名になります。

先ず設備ですが、下川町、札幌、余市は、夏でも飛べるサマージャンプ台が設置されています。

余市町と下川町に関しては、指導者も教育委員会から1名ずつ受け入れて、ジャンプを指導することを目的に専門の指導者がいますので指導にブレがありませんが、小樽のコーチは、いろんな方がいろんな視点でコーチをするので、各々指導することが違ってまいります。

大会の数ですが、私が子供のころには毎週大会があったが、現在は小樽は冬に3回のみ、札幌では夏4回、冬4回、余市は夏2回、冬1回と大会数自体が減ってきています。

私たちが子供の頃は毎週ある大会に出場しトロフィーや賞状をもらって親に褒められたい、ライバルに勝ちたいと言った目標や目的があったのですが、現在の子供たちに目標を聞くとき親に何か買って貰う為に頑張りたいと言う子供が殆どであります。これも大会が少なくなった影響だと私は思います。

整備の話をして頂くと、冬場の整備が非常に大変です。私たちが子供の頃は、子供たちだけで60名いましたので、子供たちだけで整備をすることが出来ました。現在は、小学校低学年も含め9名なので子供たちだけでは、整備はできません。

また、スキーの性質も変わって溝を切らないとまっすぐ滑れなくなっていますので、1日2日3日かけて、溝を作る作業をして水を撒いて氷にして初めて飛ばせる状態になります。雪が降るとまた同じ作業をしなければなりません。この作業を4、5人で行っているのが現状です。

また、潮見台シャンツェは、サマージャンプの施設がございませんので毎年プロフィールが変わります。また、最初10名で立ち上げたOB達も現在は、私と石川さん含め3人か4人で運営しているのが現状です。

団費も少ないのが現状で、小樽ジャンプ王国だった時代の火を消さないで頑張っていきますので、温かいご支援を頂ければありがたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



川崎 清司 様



石川 稔 様